



ごみ処理の「見える化」

平成20年度の総ごみ量2,822トン(ごみと資源物の排出量)が確定しました。

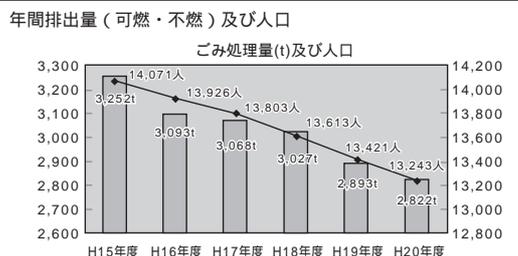
可燃ごみは、平成19年度に比べて62トン減少して2,236トンに。1人一日あたりの排出量は6グラム減って463グラムとなり、不燃ごみは、9トン減少して586トンに。1人一日あたりの排出量も0.23グラム減って121.23グラムとなりました。

これは、町民皆さんが日頃からごみ減量に対して高い意識を持ち、努力された結果です。ご協力ありがとうございました。

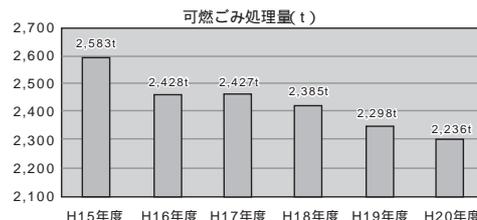
ごみ減量化の取り組みとして

可燃ごみの半分は「生ごみ」です。普段の生活の中で、「食材を買い過ぎない」「作り過ぎない」「調理くずを減らす工夫をする」「食べ残しをしない」「生ごみは水分をよくしぼる」を実践してください。また、コンポスト容器を利用して生ごみを土に返す取り組みをお願いします。

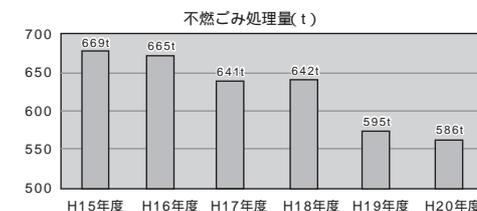
不燃ごみについても、もう一度分別の徹底確認をお願いします。さらにレジ袋を断り、過剰包装の商品を買い控えましょう。



(年間可燃ごみ排出量)



(年間不燃ごみ排出量)



ごみ減量の達人に学ぶ!



谷口健治さん
(浦富)

★谷口さんの一言アドバイス★

生ごみは、燃えるごみには一切出していません。

コンポスト容器へ生ごみを投入する期間は6か月間、その後6か月間放置するとよい堆肥ができます。(コンポスト容器が2基あると交互に使用でき便利です。)

害虫の発生には、市販の発酵促進剤(ボカシなど)をふりかけています。こうして、1年ぐらいで土作りは完了です。よい堆肥を作るポイントは、生ゴミの水分はよく切ること、よくかき混ぜて酵素がいきわたるようにすることです。

コンポスト容器は、魔法の容器。生ごみを入れても入れても一杯になりません。

谷口さんは、ごみ減量に熱心。生ごみを燃えるごみには出さず、コンポスト容器を利用し、生ごみを土に返す取り組みをしています。家族は大人3人で、150リットル3基のコンポストを使用しています。



きゅうりの植え付けの肥料に使用し、たくさんのきゅうりが実りました。



町では、コンポスト容器購入費に補助をしています

1世帯あたり2基までとし、購入経費の2分の1(100円未満の端数は切り捨てとなります)を補助しています。ただし、1基につき上限は5,000円となっています。

問い合わせ先 住民生活課 環境係 ☎73-1415